

修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院 電気通信学 研究科		博士前期課程 システム工学	専攻
氏 名	内田 康嗣		学籍番号 0535006
論 文 題 目	日経225オプション市場におけるボラティリティ・リスク・プレミアム		
要 旨			
<p>本研究では、ボラティリティ・リスク・プレミアムに関する実証分析の手法を先行研究Bakshi/Kapadia[2003]に基づき整理したうえで、その実証分析手法を用いて日経225オプション市場価格データに基づいて実証分析を行い、日経225オプション市場におけるボラティリティ・リスク・プレミアムの特徴を分析する。また、先行研究の米国S&P500における結果と比較し、日経225オプション市場の特徴を考察した。</p> <p>先行研究と同様の分析結果としては、日経225オプション市場においても米国オプション市場と同様にボラティリティ・リスク・プレミアムは負であるが、日本のオプション市場の方がオプション価格に内在するボラティリティ・リスク・プレミアムが大きく、オプション価格が相対的に高いことがわかった。オプションはヘッジの手段としてよく用いられるので、オプション価格が高いことは保守的であることを示唆する。このことから、日本の投資家は米国の投資家に比べ保守的であることを示唆する考察が得られた。また、日経225オプション市場においてはボラティリティ・リスク・プレミアムが、ボラティリティに関する線形関数とはならない結果も得られた。</p> <p>本研究での新たな分析としては、日経225オプション市場においてはボラティリティ・リスク・プレミアムが、ボラティリティに関する線形関数とはならなかったため、分析手法をボラティリティに関する二次の項を含む形に拡張して分析を行った。その結果、ボラティリティ・リスク・プレミアムをボラティリティの線形と仮定した場合よりも、ボラティリティの2次関数を仮定した場合での検証結果のほうが良く、日経225オプション市場におけるボラティリティ・リスク・プレミアムが、ボラティリティの2次関数である可能性を示唆することができた。更に、市場から抽出されたボラティリティ・リスク・プレミアムを利用して適正なオプション評価を行う方向性も示した。</p>			